

# 山形技術者倫理ニュースレター 第7号 (2025年3月)

発行：日本技術士会山形県支部倫理委員会

日本技術士会山形県支部の倫理委員会は、2024年度の活動として、第1回ワークショップを開催しました。今回は、近年の不正事例を題材として2グループに分かれてワークショップを行いました。本号は、参加できなかった会員の皆様に紹介するため、ワークショップの内容を掲載します。なお、講演の詳細については、次号に掲載します。

## 令和6年度技術者倫理ワークショップ

### 1 第1回ワークショップ

日時：令和7年1月24日（金）14:50～16:50

場所：山形テルサ 研修室A（山形市双葉町1-2-3）

参加人数：12名（山形県支部会員11名、SGEEの会会員（県支部会員以外）1名）

概要：安達委員長挨拶のあと、机配置替え後に、話題提供、イントロダクション（事例の説明）、ワークショップのプログラムの説明を行い、2班に分かれて、事例をもとに意見交換、最後に、各班からの内容発表を行いました。

#### (1) 話題提供：近年の不正事例について

説明者：大岩副委員長

説明内容：近年発生している不正事例の概要について説明。検査データの改ざんのケースが多い傾向にある。

#### (2) イントロダクション：ワークショップ事例の説明

説明者：玉津委員

説明内容：ワークショップの題材である「和歌山県八郎山トンネル工事」の工事概要、問題の内容、ワークショップの討議に当たってのポイントなどについて説明。

#### 【和歌山県八郎山トンネル工事の工事概要】

工事名：長井古座線（仮称八郎山トンネル）道路改良工事

発注者：和歌山県

契約日：令和2年9月29日

工期：令和2年9月30日～令和4年9月19日

工事場所：和歌山県東牟婁郡那智勝浦町中里外地内

請負者：浅川・堀特定建設工事共同企業体

工事概要：トンネル工（NATM工法）L=711m、補助工法一式

#### 【倫理問題と経過】

施工業者が覆工コンクリートの厚さ不足を認識しながら工事を継続し、書類を改ざんして検査を突破。発注者の和歌山県も検査を怠り、安全性が大きく損なわれた。

工事のやり直しに約2年を要し、開通は2025年12月に延期。和歌山県は施工業者に損害賠償を求め、監督責任を問われた職員6人を厳重注意処分とした。

### (3) ワークショップ

倫理問題事例「和歌山県八郎山トンネル工事」について、事例確認を行った後に、リスク・課題の洗い出しや解決策提案について参加者間で意見交換を行った。

#### ① ワークショップのプログラム

手 順	目安時間	内 容
手順説明	0～5分 (5分)	事務局より、ワークショップの手順を説明
事例確認	5～10分 (5分)	事例を各自読み、問題の要点を確認して、班内で共有する。
リスク・課題の洗い出し	10～40分 (30分)	ケースに潜むリスクや技術者として考えるべき課題を洗い出す。 参加者からリスクや課題の意見を求める。 参加者の意見を整理して、リスクと課題をまとめる。
解決策の提案	40～65分 (25分)	課題に対して具体的で実行可能な解決策を提案する。 参加者からリスクや課題に対する解決策の意見を求める。 参加者から出された解決策について具体性や実現可能性などを検討する。 提案内容を整理して、優先順位などを議論する。
発表準備	65～80分 (15分)	記録係のメモをもとに内容を整理し、発表内容をまとめる。 最終的な議論内容を全員で振り返り、漏れがないか確認。 なお、発表資料は（別紙様式）を使用して下さい。
発 表	80～95分 (15分)	各班から発表（2班7～8分程度）



手順説明



ワークショップ状況



終了後記念撮影

## ② ワークショップでの意見内容

班分け：1班（6名）、2班（5名）計12名

### 1) 事例の現状確認

各班がワークショップで意見を出し合い意見・提案をまとめた結果は以下の通り。

グループ名：1班

#### 1. ケース概要

- 事例名：八郎山トンネル工事
- 事例の重要なポイント：
  1. 組織の問題（個人への依存度）
  2. 人命の軽視（安全性の軽視）

#### 2. リスク・課題

- 特定したリスク：
  1. 信用失墜（会社、業界、行政）
  2. 人命の軽視、公共の安全
- 技術者の倫理的課題：
  - ・ 個人利益の優先
  - ・ 公正な分析と判断→業務の誠実な履行

#### 3. 解決策

- 提案した解決策：
  1. 共通仕様書の遵守
  2. 透明性の確保
- 実行可能性：

第三者のチェック、倫理教育

#### 4. 教訓・まとめ

- 技術者としての学び：

技術者として誇りを持って仕事をする。  
間違っただと言える環境づくり（オープンな職場環境）



発表(1)

グループ名：2班

1. ケース概要

- 事例名：八郎山トンネル工事
- 事例の重要なポイント：
  1. 問題を発言できる組織環境でない
  2. 連絡、伝達することの重要性について、理解不足

2. リスク・課題

- 特定したリスク：
  1. 検査体制、2. 技術力不足

3. 責任感不足、4. 企業風土

- 技術者の倫理的課題：
  - ・ 真実性
  - ・ 交易確保
  - ・ 公正・誠実

3. 解決策

- 提案した解決策：
  1. チェック体制の可視化
  2. 発注者責務の明確化（品質証明員制度(契約内容)）
  3. 教育(マイルストーンの重要性を受発注者間で共有)
- 実行可能性：

属人性（役割分担）

4. 教訓・まとめ

- 技術者としての学び：

属人性に依存した体制の脱却（ベテラン任せをなくす）



発表(2)

本年度は、7月に最上・庄内地域で豪雨災害が発生したため、スケジュールとして1回のワークショップとなりました。最近話題となっている組織の不正を事例としたところ、参加者の皆様の関心が高かったようで、各班とも活発に意見が出ていたようでした。

今後も**技術者倫理**に関する話題について、不定期ではありますが、皆様のお役に立てるような情報をお届けしていきますので、引き続きお読み頂きたいと思います。（安達記）